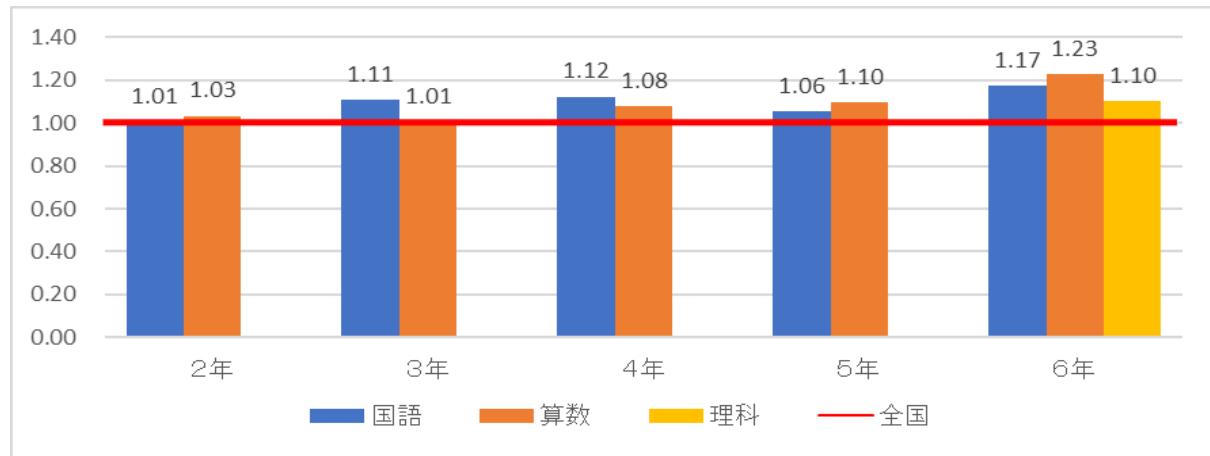


令和7年度 全国学力・学習状況調査及び寝屋川市学習到達度調査について 第六中学校区 国松緑丘小学校

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



※小学2～5年生は寝屋川市学習到達度調査、小学6年生は全国学力・学習状況調査の結果

○調査結果についての分析、今後の改善方策

寝屋川市学習 到達度調査	国語	「書くこと」を中心に、学年が上がるにつれて「考える力」の伸長が見られる。一方で、「読むこと」や「聞くこと」、「知識・技能」などについては、学年によってまだまだ伸びしきがある。各学年、それぞれの課題を焦点化して取り組む。また、読解の土台となる読書習慣を引き続き浸透させていく。
	算数	学年が上がるにつれ計算力、ことばや数を使って説明する力の伸長が顕著に見られる。日々の授業改善による積み重ねの成果だと考える。担任が懸命に取り組む「わかる授業」「できる授業」の実施とともに、一人ひとりのきめ細かな指導を引き続き行っていく。
全国学力・ 学習状況調査	国語	基礎力・学習習慣の定着と「書くこと」「語彙力を高める」に焦点化した取組が実を結ぶ結果となった。語彙力習得に力を注ぎ、文の型や、条件作文などの地道な取組みが成果につながった。色々な情報の中から問われているものを探し出し、適切に文章化する練習を引き続き重ねていく。また、ディベート等の活動を通して、意見を言う時の注意点などのパターンを学習しながら「書くこと」への相乗効果も図っていきたい。
	算数	全ての領域で全国平均を大きく上回った。要因としては、基礎力の定着に向けた取組みの成果が挙げられる。例年、課題となる「図形」においても成果が見られたのは、中学年から基礎力を確実に習得してきた結果である。根本的な理解を問う問題に触れる授業を増やし、なぜそうなるかを考えられる子ども達の育成をめざし、さらに授業研究を深めていきたい。
	理科	全ての領域で、良好な結果となった。現象を捉え、考えを深める活動を継続してきたことと、覚えないと答えられない事項にもしっかりと取り組み、ノートづくりに励んだ成果がでたと言える。
	質問紙	学校生活や学校の授業について肯定的回答が全国平均を大きく上回っている。一方で、「家庭学習の時間」は全国平均よりも短かったため、家庭学習の充実の取組をさらに進めていく。

○学力向上の取組

【中学校区】

全国学力・学習状況調査、市到達度調査の結果を踏まえ、課題の共有と対応策の構築を図る。また、ねやがわスタンダードに基づき、ディベート教育や家庭学習ノートなど、中学校区での統一した取組を行い、小中学校の学習体制の段差を解消するシステムづくりに努めている。小中連携会議においては各教科の課題や対策を共有し、校区の子どもの実態把握に努めている。

【本校】

今回の結果を分析し、全教員で共有する研修を行った。これまでの取組による成果と課題から、不得意分野の学力向上に取り組む。授業力向上に関する研修や研究授業を行い、「わかる授業」「できる授業」への授業改善を図る。ここ3年間は「型」を活用して、子ども達の「説明する力の育成」を重点研究しており、それを理解度向上、学力向上につなげていきたい。そして、3～6年の少人数授業や専科授業、放課後学習である学び舎等の活用によって、学力の二極化の解消をめざして、一人ひとりの学習の充実を図っている。また、ディベートをはじめ、各授業において話し合いや発表の場をできる限り多く組み入れ、「考える力」の育成を図り、「主体的、対話的で深い学び」を追求した授業づくりの実践を図っている。